

令和 8 年2月20日

文教厚生常任委員会
委員長 ひさなが 信也 様

文教厚生常任委員 江原健二

文教厚生常任委員会行政視察報告書

下記の日程で行政視察を実施しましたので、別紙のとおり報告します。

記

1. 視察期日及び視察先

令和 8 年 1 月 26 日(月)

福岡県福岡市

「親亡き後の住まいについて」

「障がい者グループホーム開設支援事業の取り組みについて」

株式会社カムラック(福岡県福岡市)

「障害者就労継続支援事業について」

2. 視察参加名簿

委員長 ひさなが 信也

副委員長 江原 健二

委員 林 哲也

委員 岩藤 睦子

委員 綾城 美佳

委員 橋本 憲治

委員 尾崎 貴夫

委員 田村 継

以上 8 名

3. 視察報告・所感 別紙

(別紙)

視察先	福岡県 福岡市
視察日時	令和8年1月26日(月) 10:00~11:30
視察項目	親亡き後の住まいについて 障がい者グループホーム開設支援事業の取り組みについて
対応部者署名	福岡市福祉局 障がい者部 障がい施設福祉課長 福岡市福祉局 障がい者部 障がい施設福祉課 施設指導第2係長 福岡市福祉局 障がい者部 障がい施設福祉課 施設指導第2係員
視察内容	
<p>1 視察の目的 重度障がい者の受け入れ先不足への対応。親亡き後問題（8050問題）への備え。グループホーム参入促進の制度設計の確認。独自補助制度の効果検証。</p> <p>2 障がい者グループホームの現状</p> <ul style="list-style-type: none">■全国動向 利用者数は増加傾向。日中サービス支援型が拡大。精神障がい利用者の増加。重度区分利用者の増加。■福岡市内の状況 事業者数・定員数ともに増加。障がい福祉計画の見込み量を上回る伸び。しかし重度対応型は依然不足。 <p>3 福岡市独自の補助制度</p> <p>(1) 設置費補助 対象：備品購入費、消防設備費、前家賃、重度対応改修費、バリアフリー改修費 特徴：新設・既存物件対象、同一物件は原則1回、処分制限あり（約5年） 目的：初期参入ハードルの軽減</p> <p>(2) 運営費補助（重度対応） 対象：支援区分6、強度行動障がい（区分4・5） 補助額：1人当たりの年約80万円（令和7年度） 目的：国基準を超える職員配置を可能にする。 結果：重度対応事業所は増加傾向</p> <p>4 制度創設の背景 国補助は要件が厳しく使いづらい。市独自で小規模補助から開始。財政当局は「本来は国の役割」との認識→持続可能性が今後の課題</p> <p>5 事業者参入の実態</p> <ul style="list-style-type: none">■参入状況 異業種・全国チェーン参入増加。既存アパート活用が主流。軽度精神障がい向けは充足傾向。■重度が増えない理由 人員配置コストが高い。強度行動障がい対応のリスク。人材確保困難。 <p>6 人材不足という構造課題 障がい福祉は資格制限が緩い。人材育成補助が組みにくい。強度行動障がいは実質1</p>	

対1支援。→報酬単価と人材確保の両面課題。

7 市営住宅の活用

法定目的外使用として一部活用。家賃減免なし。現在は積極拡大していない。

8 地域理解

住民反対事例あり。同意要件は設けていない。地域参加型の成功事例も存在。

9 8050問題

親が元気なうちは入所を選ばない傾向。体験利用で徐々に移行。将来需要の精密把握は困難。

所 感

「親亡き後の住まい確保及び障がい者グループホーム開設支援」という視察テーマで、福岡市福祉局障がい者部障がい施設福祉課を訪問した。福岡市の総人口は約167万人（2025年9月時点の推定人口）で、財政規模の大きな自治体である。

福岡市は、障がい者が安心して地域の中で暮らし続けられるよう、障がい者グループホームの設置を促進する様々な取組みを行っている。「福岡市障がい者グループホーム開設応援サイト」では、福岡市内に障がい者グループホームの開設を希望する法人を対象に、障がい者グループホーム向け不動産物件に関する情報、補助制度、建築基準法上の取扱い等、障がい者グループホームの開設に役立つ情報を提供し、障がい者グループホームの開設を応援しており、市独自の施策の取組みは高く評価されるとともに、障がい者に寄り添った施策を展開していると言える。多くの参考になる視察内容であった。福岡市で取り組まれている諸施策を参考にして、本市でも取り組める内容について、今後、研究を深めて参りたい。

(別紙)

視察先	株式会社カムラック（福岡県福岡市）
視察日時	令和8年1月26日(月) 13:30~16:00
視察項目	障がい者就労継続支援事業について
対応者名	カムラックグループ代表 賀村 研
会社概要	福岡市博多区に本社を置く、ITスキルを活用して障がい者の就労を支援する企業です。(設立は2013年10月)就労継続支援 A型・B型、移行支援、相談支援などを運営し、ホームページ作成やシステム開発などの実務を通して、高い工賃と安定した自立環境を提供している。
視察内容	
1	視察の目的 障がい者就労の出口設計」(B型→A型)→一般就労)の実態確認。IT産業と福祉を接続した持続可能モデルの研究。地方都市での展開可能性の検討。
2	カムラックの基本理念 「支えられる側から、支える側へ」。福祉型就労の固定化への問題提起。納税者を増やすという視点。社会保障依存構造からの転換。
3	現行制度への問題意識 ■B型の固定化 移行率は極めて低い。工賃向上のみでは出口になりにくい。 ■A型の構造問題 売上より給付費依存の事業所存在。2018年以降の制度改正で多数閉鎖。成果重視型報酬へ転換。 ■社会保障の逆機能 収入増で給付減。自立を目指すほど不利になる構造。
4	カムラックモデルの構造 ■三層モデル B型(訓練)。A型(稼ぐ)。就労移行支援(一般就労接続)。出口前提型設計。
5	IT特化型の理由 地理的制約が少ない。身体制約を受けにくい業務。人材不足業界。 ■主な業務 データ入力。EC運営。Web制作。品質管理業務。
6	人材育成の特徴 IT企業OBによる技術指導。子育て世代女性の在宅活用。柔軟な働き方導入。
7	実績 年間約10名が一般就労。独立事例あり。精神障がい者の再チャレンジが多い。
8	在宅・ICT活用 バーチャルオフィス導入。顔出し不要・音声距離機能。不登校支援にも応用可能。

所 感

株カムラックは、福岡を拠点とする就労継続支援 A 型事業所で、IT 業務を中心とした実践的な就労支援で、高い定着率と手厚いサポートが評判の会社であり、上司・指導員との関係性が良く、体調優先で成長を促す環境や、未経験から IT スキルを身につけられる点が高く評価されている。全国的に見ても、これだけ障がい者に対して就労支援に貢献している会社は少ないと強く感じた。長門市でもこのような会社の設立が望まれる。今後の課題として受け止め、規模は大きくなくても、障がい者を受け入れる体制ができたら良いと強く感じた視察訪問であった。